

山のこどもアトリエ

8月13日(火) ~ 8月15日(木)

IN 国立曽爾青少年自然の家

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発	名札づくり	手形Tシャツづくり
2日目	野外炊飯	飾り板づくり	キャンドルファイヤー
3日目	清掃・解散		

- 一日目： 台風の心配をよそに、元気な表情のメンバーが集まり、キャンプが始まりました。バスの中では初対面にも関わらず、グループごとに話が盛り上がり、クイズを出しあったりしてあっという間に施設に到着しました。施設に到着するとあいにくの雨天でしたが、昼食を済ませると、皆から工作をする気満々な姿勢を感じる事が出来ました。まずは【名札づくり】をしました。「キャンプと言えば…」を想像して絵を描いた方や、紐や飾り付けを頑張った方、好きなものをイメージして作った方などいきなり作品に個性が表れ、素敵な名札が仕上がりました。夕食後は【手形スタンプTシャツ】を作成しました。グループごとに与えられた材料が同じでも、色が違って仕上がり、自然とお互いに協力する姿が見られ、充実した時間となりました。
- 二日目： から悪天候のため、屋内のクラフトホールでの活動となりました。朝食は牛乳パックを使って【パックドック】作りに挑戦しました。湿気の影響もあり、牛乳パックへの点火に苦戦されているグループもありましたが、皆で出来上がったパックドックを頬張りながら、「おいしいー!!」と笑顔が伺えました。朝食後すぐに昼食作りが始まりました。【ラタトゥイユ】を“ポリ袋調理”という方法で作りました。ゴロゴロ大きめ野菜のグループもあれば、小さく切ったり、薄く切ったりして、食べやすいよう工夫されていました。そしてもう一品【ごちそうおにぎり】を握りました。具を握ったおにぎりに海苔を使ってデコレーションし、それぞれが想うごちそうを表現します。自分達で作ったごはんの美味しさはやっぱり特別なようで、「給食よりも美味しい」や「お家でも作ってみたい」という声を聞くことが出来ました。午後からは【飾り板】に熱中しました。全員同じサイズの板を自由に使い、飾りつけていきます。釘や小さなボタン、フェルトにカラフルな糸など、材料からアイデアが止めどなく湧き黙々と作業に取り掛かれ、普段にぎやかな様子が一変、静かな充実した時間が流れていました。片付けの後、夕食、入浴を済ませ、夜のプログラム【キャンドルファイヤー】をしました。リーダー達が次々とレクリエーションを展開し大盛り上がりの夜でした。
- 三日目： 台風の接近が早まったため、朝食後すぐにバスで帰ることに決まりました。起床とともに部屋の片付けが始まりました。グループのお友達と協力してシーツを畳んだり、荷造りをしたりされる姿からはキャンプ初日とは全く異なり、たくましさや協調性が感じられました。予定していた【鉛筆キーホルダー作り】が無くなったことを伝えると、とても残念がる声が上がりました。「もっと作りたい!」という工作への熱意と充実したキャンプ生活を送れていることが伝わってきました。帰りのバスの中で、代わりにリーダー全員で作ったプレゼントの鉛筆キーホルダーを手渡しました。解散時にグループでお揃いの手形Tシャツを着て、皆で工作の思い出をしっかりと刻み込み、各々別れました。

<キャンプ総括>

3日間を通して台風の影響を受けたキャンプでしたが、工作の時間が始まると全く気にすることなく、集中して制作に取り組むことが出来ました。出来上がってくる作品もそれぞれに工夫が凝らされており、見ただけでワクワクするものばかりでした。また、集団生活を通してお互いが気持ちよく過ごせる様に努力している姿にも驚かされました。友達の上靴を揃えたり、グループからはぐれそうな友達を呼び戻しに行ったりする姿が見受けられました。そして、お互いの名前を呼び合う声も日に日に多く聞こえる様になりました。工作の時間というのは、“頭の中にあるアイデアを見える形に作り上げていく”という、【自分と向き合う一人の時間】でもあります。その時間の中で考える力、想像する力が育まれます。今回、自分と向き合う時間を大切にしたいと考え、プログラムを進めました。想像する力をじっくり育み、相手を思いやることのできる力に繋がることを願っています。参加者様が今回持ち帰った作品には、大人の手が加わっていないため細部に至るまでメンバーの考えやアイデアが凝らされています。そんなお土産を是非じっくりお話を聞きながら、一緒に感動していただきたいです。(原田 梨津実)

